

P2-5

他施設紹介症例の理由精査と 自施設で治療する場合の環境整備についての検討

独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター 山口 千春

背景

他施設から紹介された患者を治療せず他施設に紹介することがある。当院の幹部から、理由は何か、当院で治療することはできないのか問い合わせがあった。

目的

当院で治療をせずに他施設に紹介した理由を明らかにし、当院で治療を実施する場合、どのような環境改善をすれば可能となるかを示すこととした。

方法Ⅰ

対象施設：独立行政法人国立病院機構
千葉医療センター
対象症例：院内がん登録2023年症例のうち
症例区分が「診断のみ」「その他」の症例

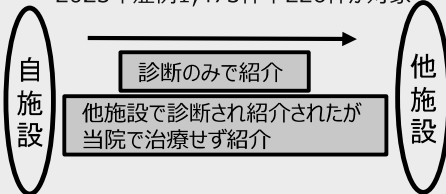
方法Ⅱ

- ▶カルテを査読し、紹介理由により分類する。
- ▶当院都合による紹介について課題を抽出する。

結果

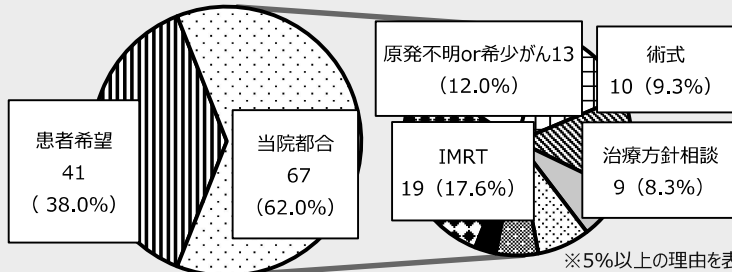
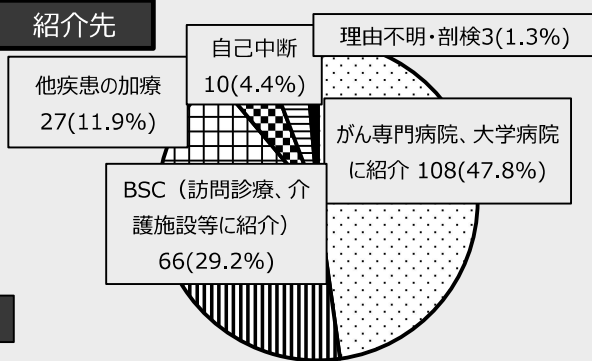
対象症例数

2023年症例1,473件中226件が対象



がん専門病院、大学病院に紹介108件を深堀

紹介先



※5%以上の理由を表示

考察

- 患者希望による高度医療機関や近医紹介
 - インフォームドコンセントが適切になされた
- BSC症例
 - 病病連携、病診連携が適切になされた
- 自己中断
 - × その後の診療状況が不明であり、適切な医療を受けられていない可能性がある
⇒本人の意思確認以上のことはできない
- 当院都合による紹介
 - 原発精査・希少がん/治療方針相談
⇒集約化の観点から適切である
 - ×IMRT/術式（乳房再建、ロボット支援等）
⇒医療資源の追加（IMRTが可能な放射線機器、乳房再建術を実施する形成外科医、手術支援ロボット等）

研究の限界

費用対効果分析を実施していない。

結語

当院治療における必要な環境を明らかにした。実際の導入にあたっては、費用が高額になるものが多いため、費用対効果の面から、それぞれ具体的数値の提示が必要と考える。

COI開示

当演題に関するCOIはありません。
日本がん登録協議会 第34回学術集会
演題名：他施設紹介症例の理由精査と自施設で治療する場合の環境整備についての検討
演者：山口 千春